

Netfinity クライアントサービス SC88-6559-00

ユーザーズ・ガイド

バージョン **5.2 (NetWare 用)**

IBM

Netfinity クライアントサービス SC88-6559-00

ユーザーズ・ガイド

バージョン **5.2 (NetWare 用)**

— ご注意 —

本書の情報およびそれによってサポートされる製品を使用する前に、29ページの付録B、『特記事項』に記載する一般情報を読んでおいてください。

第 1 版 (1998 年 8 月)

原 典	10L9267 Client Servicesfor Netfinity Manager for Netware User's Guide
発 行	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

Netfinity の製品説明	1
システム要件	3
Netfinity のインストール	5
NetWare サーバーでのインストール	5
ワークステーションからのインストール	11
Netfinity の開始	17
ネットワーク・ドライバー構成の変更	19
NetWare サーバーのネットワーク・ドライバー構成の変更	19
ワークステーションからのネットワーク・ドライバー構成の変更	19
Netfinity クライアントサービス (NetWare 版) の機能上の相違点	21
コマンド・ライン機能	23
GENALERT.NLM	23
ECCMEM.NLM	24
付録A. サポートされる PFA ハード・ディスク・ドライブ	27
付録B. 特記事項	29
商標	30

Netfinity は、ネットワークのシステム監視およびシステム管理機能を拡張するために設計された、分散アプリケーションのグループです。Netfinity は、柔軟なモジュラー設計になっているので、様々なシステムに対応する構成が可能です。ネットワーク環境内、あるいはスタンドアロン・システムとして、個々のシステムに必要なプログラム・ファイルをインストールするだけで、それぞれのシステムに合わせて構成することができます。さらに、Netfinityにはモジュラー性があるため、基本プロダクトを再インストールすることなく、変更を加えたり、新たにサービスを追加することができます。Netfinityは、現在必要な機能およびアプリケーションの柔軟性ととも、将来必要になるシステム拡張性にも対応します。

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) の使用によって、ネットワーク管理者は、リモートで効果的に NetWare サーバーを監視および管理することができます。Netfinity プログラムをサーバー上で実行することによって、ネットワーク管理者は、サーバーやサーバー内の貴重なデータに重大な影響が生じる前に、NetWare サーバーで発生する多くの問題を予測し、訂正することができます。また、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) によって、ハードウェア構成や資源割振りなどのシステム管理タスクも強化されます。

注: Netfinity クライアントサービス・プログラム (OS/2 版)、Netfinity クライアントサービス・プログラム (Windows 版)、Netfinity クライアントサービス・プログラム (Windows 95 版)、および Netfinity クライアントサービス・プログラム (Windows NT 版) と異なり、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) では、NetWare サーバー上で Netfinity サービスをローカルには使用できません。NetWare は、ピアツーピア (対等型) 環境ではなく、クライアント/サーバー (主従型) 環境で効率的に作動するように設計されています。このクライアント/サーバー設計と整合性を保つために、NetWare サーバーのハードウェアの監視および保守を Netfinity マネージャー・プログラムのあるシステムからリモートで行う必要があります。

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) をインストールするためのサーバーの最小システム要件は、次のとおりです。

- NetWare 3.12J/V,またはそれ以降のバージョン
- CLIB.NLM (日付が 1994 年 5 月 19 日以降のもの)
- 約 4MB*のハード・ディスク・スペース
- LANアダプター・カード
- IPX または TCP/IP 通信プロトコル

上記の要件に加えて、IBM サーバーで PS2SCSIA.DSK が稼働している場合に、Netfinity クライアントサービス・プログラム は最も効果的に作動します。この環境では次の機能が提供されます。

- 拡張システム情報ツール機能
- 拡張システム・モニター機能
- 事前障害分析 (PFA: Predictive Failure Analysis) サービスの使用

注: サーバーが Adaptec SCSI ハード・ディスク制御機構を使用している場合、事前障害分析を使用するには、1994 年 11 月 30 日付の AIC7870.DSK (サイズ = 365341KB) を起動させる必要があります。AIC7870.DSK のその他のバージョンでは、事前障害分析を適切に機能させることができません。

* ハード・ディスク駆動機構の容量の場合、1 MB は約 100 万バイトに当たりますが、ユーザーがアクセス可能な容量は操作環境によって異なります。

Netfinity のインストール

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) は、次の 2 通りの手順のいずれかでインストールできます。

- NetWare サーバーで直接インストールする。

Netfinity クライアントサービス・プログラム をサーバーに直接インストールする場合は、『NetWare サーバーでのインストール』を参照してください。

- NetWare サーバーにログインしているワークステーションからインストールする。

Netfinity クライアントサービス・プログラムを NetWare のワークステーションからサーバーにインストールする場合は、11ページの『ワークステーションからのインストール』を参照してください。

NetWare サーバーでのインストール

NetWare サーバーへの Netfinity クライアントサービス・プログラムのインストールは、以下のようにして行います。

1. サーバーの CD-ROM ドライブに Netfinity CD を入れます。
2. CD をボリュームとしてマウントするか、または CD を DOS のドライブ名で使用します。
3. Netfinity インストール・プログラムを始動します。

- CD をボリュームとしてマウントした場合は、次のように入力して、**ENTER** キーを押します。

```
LOAD volumename:NETWARE¥SERVICES¥NETFINST
```

ここでの *volumename* は、Netfinity CD-ROM のマウント時に割り当てたボリューム名です。

- CD を DOS のドライブ名で使用する場合は、次のように入力して、**Enter** キーを押します。

```
LOAD drive:¥NETWARE¥SERVICES¥NETFINST
```

ここでの *drive* とは、Netfinity CD-ROMに割り当てた DOS のドライブ名のことです。

4. プログラム・ファイルのコピー先のターゲット・パスを指定します。

次のメッセージがディスプレイに表示されます。

デフォルト・ターゲット・パスはSYS:NETFIN¥

Enter キーを押してデフォルト・パスを受け入れるか、

または新しいターゲット・パスを入力して、Enter キーを押してください。

省略時のパスを受け入れる場合には、そのまま **Enter** キーを押し、受け入れない場合には、新しいパスを入力して、**Enter** キーを押します。存在しないディレクトリーが指定した新しいパスに含まれている場合、インストール・プログラムがディレクトリーを作成するかどうかを聞いてきますので、確認してから、インストールを続けてください。

インストール・プログラムがプログラム・ファイルを NetWare サーバーにコピーします。

5. ネットワーク・ドライバーを構成します。

インストール・プログラムが NetWare サーバーにプログラム・ファイルをコピーし終わると、次のテキストがディスプレイに表示されます。

Netfinity ネットワーク・ドライバー構成

1: システム名 : *servername*

2: ネットワーク・ドライバー : Novell IPX - 使用可能

3: システム・キーワード :

<未使用>

<未使用>

<未使用>

<未使用>

<未使用>

<未使用>

<未使用>

<未使用>

4: ネットワーク・タイムアウト : 15

5: オプション

6: 保管

7: リセット

8: 終了

項目 (1-8) を選択してください。

ここでの *servername* とは、ユーザーの NetWare サーバーの名前です。

注: サーバーが TCP/IP をサポートしている場合は、TCP/IP がネットワーク・プロトコルとして表示されるはずですが、サーバーが IPX と TCP/IP を両方ともサポートしている場合は、両方のプロトコルが表示されます。

次のステップに従って、ネットワーク・ドライバーを構成します。

a. システム名を入力します。

1) 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

1

次のメッセージがディスプレイに表示されます。

サーバーの名前を入力してください。

2) サーバー名を入力して、**Enter** キーを押します。

b. ネットワーク・ドライバーを選択して、使用可能または使用不可にします。

1) 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

2

ユーザーのサーバーでサポートされているネットワーク通信ドライバーのリストが表示され、以下のメッセージがディスプレイに表示されます。

ドライバー番号を選択してください。

2) ネットワーク・ドライバーの番号を入力して、**Enter** キーを押します。

注: Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) では、IPX および TCP/IP 通信プロトコルをサポートしています。

3) ネットワーク・ドライバーを使用可能または使用不可にします。

ネットワーク・ドライバーを選択すると、次のようなメッセージがディスプレイに表示されます。

ドライバー状況を設定してください。(1=使用不可, 2=使用可能)

:

次のように入力します。

2

その上で **Enter** キーを押すと、ドライバーが使用可能になります。

c. システム・キーワードを指定してサーバーを識別します (任意選択)。

システム・キーワードは、Netfinity マネージャー・プログラムがネットワーク上のシステムをより効率よく編成するために使用されます。各システムには、最高 8 種類までのキーワードを与えることができます。まだ割り当てられていないキーワードは、ディスプレイのキーワード・リストに次のように表示されます。

<未使用>

システム・キーワードを NetWare サーバーに設定します。

- 1) 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

3

番号の付いたキーワード・リストと、以下のようなメッセージがディスプレイに表示されます。

編集するには、キーワード番号を選択してください。

- 2) 変更するシステム・キーワードの番号を入力して、**Enter** キーを押します。次のメッセージがディスプレイに表示されます。

新しいキーワード (1-64 文字)を入力するか
DELETE を入力して削除してください。

- 3) 新しいシステム・キーワードを入力して、**Enter** キーを押します。以前に設定したキーワードを除去するには、次のように入力して、**Enter** キーを押します。

DELETE

キーワードが除去されると、以下のような表示に変わります。

<未使用>

d. ネットワーク・タイムアウト値を設定します (任意選択)。

ネットワーク・タイムアウトは、Netfinityが応答のないリモート・システムとの通信を試みる秒数です。Netfinityは設定時間内にリモート・システムとの接続が確立できないと、通信の試行を取り消します。ネットワーク・タイムアウトの省略時の設定は、15 秒です。この省略時の設定を変更する必要はほとんどありません。

ネットワーク・タイムアウトの設定を変更するには、次のようにします。

- 1) 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

4

以下のテキストがディスプレイに表示されます。

タイムアウト値 (5 秒間隔で 5-500) を入力してください。

- 2) 新しいネットワーク・タイムアウト値を入力して、**Enter** キーを押します。

- e. オプションを使用可能にします (任意選択)。

Netfinity には、Netfinity の操作に影響を与える特別なオプションがありません。

NetfFinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) では、「サービス実行アラート」オプションがサポートされます。このオプションを使用可能にした場合、ユーザーのシステムにアクセスしているリモート・ユーザーがNetfinity サービスのどれかを開始すると、Netfinity アラートが生成されます。このアラートには、実行されたサービスの名前と、そのサービスを開始したユーザーに関する情報が含まれています。

この Netfinity オプションを使用可能にするには、次の手順に従ってください。

- 1) 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

5

次のテキストが表示されます。

サービス実行アラート : 真 (1=偽, 2=真)。

- 2) サービス実行アラートを使用可能 (または使用不可) にします。

サービス実行アラートの状況を“偽”に設定した場合は、オプションは使用不可になります。サービス実行アラートの状況を“真”に設定した場合は、オプションは使用可能になります。デフォルトでは使用可能です。このオプションを使用不可にしたい場合は、次のように入力して、**Enter** キーを押します。

1

f. 構成を保管します。

次のように入力して、**Enter** キーを押します。

6

g. ネットワーク・ドライバー構成プログラムを終了します。

ネットワーク通信ドライバーの構成が終了したら、次のように入力し、**Enter** キーを押してインストールを続けます。

8

注: この構成は、インストール終了後にも変更することができます。詳細については、19ページの『ネットワーク・ドライバー構成の変更』を参照してください。

6. AUTOEXEC.NCF にステートメントを追加します (任意選択)。

ネットワーク通信ドライバーの構成が終了すると、次のメッセージがディスプレイに表示されます。

次の行を AUTOEXEC.NCF: に追加する必要があります。

```
SEARCH ADD path  
LOAD NETFBASE
```

AUTOEXEC.NCF を更新しますか ? (Y または N を入力してください)

ここでの *path* とは、ステップ 4 (6ページ) で入力した省略時のターゲット・パスまたは新しく設定したターゲット・パス (たとえば、SYS:NETFIN) のことです。

- サーバーの起動時に、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) を自動的に開始させたい場合は、次のように入力して、**Enter** キーを押します。

Y

Netfinity サポート・プログラムは、サーバーが起動した後自動的に開始されます。サーバーを再起動せずに、直ちに Netfinity を開始するには、画面の指示に従ってください。

- Netfinityサポート・プログラムを自動的に開始させない場合は、次のように入力し、Enter キーを押します。

N

AUTOEXEC.NCF への変更は行われず、Netfinity が開始されるのは、要求があった場合だけになります。詳細については、17ページの『Netfinity の開始』を参照してください。

7. Netfinity を開始します (任意選択)。

これでインストールが完了しました。ただちに Netfinity を開始する場合は、次のように入力し、**Enter** キーを押します。

```
SEARCH ADD path  
LOAD NETFBASE
```

ここでの *path* とは、ステップ 4 (6ページ) で入力した省略時のターゲット・パスまたは新しく設定したターゲット・パス (たとえば、SYS:NETFIN) のことです。

ワークステーションからのインストール

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) バージョン 5.2 をワークステーションからインストールする場合は、そのワークステーションに Netfinity マネージャーまたは Netfinity クライアントサービス・プログラム バージョン 5.2 がインストールされ、正常に機能している必要があります。

次の手順では、CD-ROM ドライブ D から製品をインストールすることを想定しています。ユーザーの環境によっては、CD-ROM ドライブ名が異なることもあります。

あるバージョンの Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) がすでにインストールされている場合は、Netfinity サポート・プログラムをアンロードする必要があります。この操作は、サーバーで直接行う必要があります (ワークステーションから行うことはできません)。Netfinity サポート・プログラムをアンロードするには、サーバーのコマンド・プロンプトに次のように入力し、**Enter** キーを押してください。

```
UNLOAD NETFBASE
```

NetWare サーバー上で現在起動しているNetfinity サポート・プログラムが稼動していれば、アンロードされます。これで、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare版) のインストールを続行することができます。

ワークステーションからの Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) のインストールは、以下のようにして行います。

1. ワークステーションからNetWareサーバーにログオンします。
2. Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) をインストールするサーバーに、ドライブ名を割り当てます。
3. Netfinity CD を CD-ROM ドライブ D に入れます。
4. Netfinity インストール・プログラムを始動します。
 - ワークステーションでOS/2が起動している場合には、次の操作を行います。
 - a. OS/2 全画面または OS/2 ウィンドウ・セッションを開始します。
 - b. コマンド・プロンプトで次のように入力し、**Enter** キーを押して、CD-ROM ドライブ名をアクティブ・ドライブにします。
D:
 - c. コマンド・プロンプトに次のように入力し、**Enter** キーを押して、インストール・プログラムを開始します。
NETFINST
 - ワークステーションで Windows (Windows 3.1 または Windows NT 3.51) が起動している場合は、次の操作を行います。
 - a. プログラム・マネージャから「アイコン」プルダウン・メニューを選択します。
 - b. 「アイコン」プルダウン・メニューから「名前を指定して実行」を選択します。
 - c. 「コマンドライン」フィールドに次のように入力してから、**OK** を選択します。
NETFINST
 - Windows 95 または Windows NT 4.0 が起動している場合、次の操作を行います。
 - a. 「スタート」ボタンをクリックします。

- b. 「スタート・ボタン」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- c. 「コマンドライン」フィールドに次のように入力してから、「OK」を選択します。

NETFINST

- 5. Netfinityプログラム・ファイルのコピー元のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity プログラム・ファイルのあるドライブとディレクトリー名を、「インストール元ディレクトリー」フィールドに入力します。

D:\~~NETWARE~~\SERVICES がこのフィールドに表示されない場合は、これを入力します。

- 6. Netfinity ファイルのインストール先のドライブとディレクトリーを選択します。

Netfinity プログラム・ファイルのコピー先のドライブ名とディレクトリー名を入力します。ドライブ名は、サーバーにマップしたドライブ名でなければなりません。省略時ドライブは、**C:\~~NETFIN~~** (OS/2 が起動しているシステムの場合)、または、**C:\~~WNETFIN~~** (Windows、Windows 95、または Windows NT が起動しているシステムの場合) になっています。

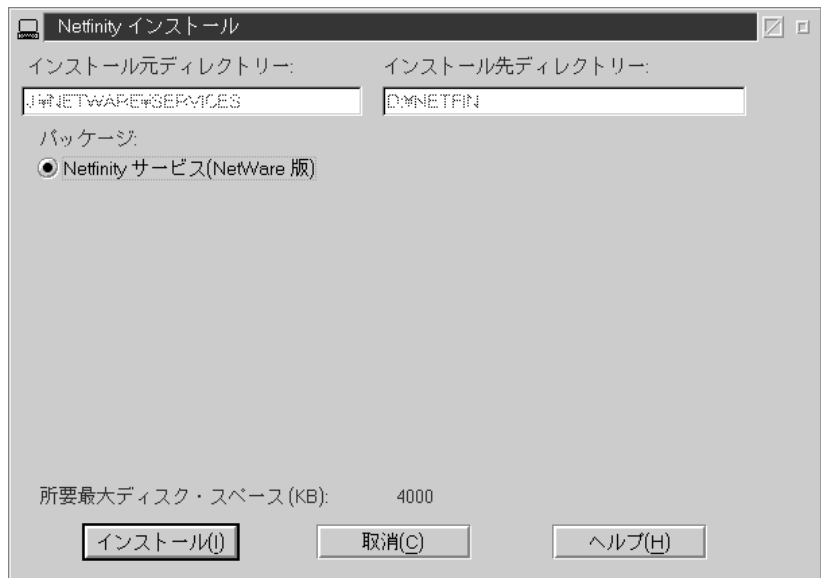


図 1. Netfinityインストール・プログラム

7. Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) をインストールします。

「インストール」を選択します。Netfinity インストール・プログラムがプログラム・ファイルを NetWare サーバーにコピーします。現在コピー中のファイル名とインストールが完了した割合を示すウィンドウが表示されます。

注: インストール・プロセスを中止するには、「取消」を選択します。

8. ネットワーク・ドライバーを構成します。

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) が正常に機能するためには、IPX または TCP/IP 通信プロトコルに関する情報を入力する必要があります。「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウが表示されます。



図 2. Netfinity のインストール - 「ネットワーク・ドライバー構成」ウィンドウ

次のステップに従って、ネットワーク・ドライバーを構成します。

a. システム名を入力します。

「システム名」フィールドにシステム名を入力します。この名前でネットワーク上のサーバーを識別します。

b. ネットワーク・ドライバーを選択します。

「ネットワーク・ドライバー」フィールドに表示されている使用可能なネットワーク・ドライバーから、IPX または TCP/IP を選択します。

注: Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) をインストールしているワークステーションでサポートされる追加の通信プロトコルがある場合は、そのような通信プロトコルの名前が「ネット

ワーク・ドライバー」フィールドに表示されます。IPX または TCP/IP 以外の通信プロトコルは、使用可能にしないようにします。そのプロトコルがワークステーション上に存在していても、NetWare サーバー上には存在していないこともあるからです。Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) は、IPX および TCP/IP 通信プロトコルだけをサポートしています。IPX または TCP/IP 以外の通信プロトコルを使用可能にすると、Netfinity クライアントサービス・プログラム の始動時に、エラー・メッセージがサーバーに表示されますが、NetWare サーバーまたは Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) にそれ以外の影響が生じることはありません。

c. ネットワーク・ドライバーを使用可能にします。

必要な情報をすべて入力した後、「ドライバー使用可能」チェック・ボックスを選択して、始動時にドライバーが活動状態になるようにします。

d. システム・キーワードを指定してサーバーを識別します (任意選択)。

システム・キーワードは、ネットワーク上のサーバーを識別するのに使用されます。システム・キーワードは、Netfinity クライアントサービス機能にとって必須ではありませんが、使用すれば、ネットワークを編成することができ、Netfinity マネージャー・プログラムの自動検索処理プロセスを一層効率的に機能させる上で役立ちます。

e. Netfinity オプションを選択します (任意選択)。

Netfinity オプション・ウィンドウには、Netfinity のネットワーク操作に影響を与える特別なオプションがあります。

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) では、「サービス実行アラート」オプションのみがサポートされるだけです。(Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) のインストール元のシステムによっては、他にも選択項目が表示される場合がありますが、他の選択項目を選択することがないようにします。)「サービス実行アラート」オプションを使用可能にした場合は、リモート・ユーザーによって、Netfinity サービス・プログラムの 1 つが開始されるつど、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) によって、Netfinity アラートが生成されます。このアラートには、実行されたサービスの名前と、そのサービスを開始したユーザーに関する情報が含まれています。

この Netfinity オプションを実施する場合は、「オプション」、「サービス実行アラート」を選択してから、「OK」を選択してください。

f. ネットワーク・タイムアウト値を設定します (任意選択)。

「ネットワーク・タイムアウト」フィールドには、Netfinity が応答のないリモート・システムと通信を試みる秒数が示されます。Netfinityは設定時間内にリモート・システムとの接続が確立できないと、通信の試行を取り消します。ネットワーク・タイムアウトの省略時の設定は、15 秒です。この省略時の設定を変更する必要はほとんどありません。

g. 構成を保管し、インストールを続けます。

「保管」を選択して、構成を保管します。その後で「終了」を選択して、次に進みます。

注: この構成は、インストール終了後にも変更することができます。詳細については、19ページの『ネットワーク・ドライバー構成の変更』を参照してください。

これで Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) のインストールは完了です。Netfinity クライアントサービス・プログラムをサーバー上で開始する方法の説明については、17ページの『Netfinity の開始』を参照してください。

サーバーが始動するつど、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) が自動的に開始できたり、または要求時にプログラムを開始できるように、サーバーを構成することができます。

- サーバーの始動時に、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) を自動的に開始させたい場合は、サーバーの AUTOEXEC.NCF ファイルに次のようなステートメントを追加する必要があります。

```
SEARCH ADD path  
LOAD NETFBASE
```

ここでの *path* とは、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) のインストール時に指定したプログラム・ファイルのあるターゲット・パス (たとえば、SYS:NETFIN) のことです。

上記の設定を保管すると、サーバーの起動後、Netfinity サポート・プログラムが自動的に開始されるようになります。

注: Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) をサーバーに直接 (ワークステーションからではなく) インストールした場合は、これはすでに実行されている可能性があります。詳細については、ステップ 6 (10ページ) を参照してください。

- Netfinity サポート・プログラムを自動的に開始せず、必要なときに、サーバーのコマンド・プロンプトからこのプログラムを開始させることもできます。その場合には、サーバーのコマンド・プロンプトから次のように入力し、**Enter** キーを押してください。

```
SEARCH ADD path  
LOAD NETFBASE
```

ここでの *path* とは、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) のインストール時に指定したプログラム・ファイルのあるターゲット・パス (たとえば、SYS:NETFIN) のことです。これで、Netfinity サポート・プログラムが開始されます。

ネットワーク・ドライバー構成の変更

サーバーのネットワーク・ドライバー構成を、インストール後に変更することができます。変更方法には、次の 2 通りがあります。

- NetWare サーバーで直接変更する。
- NetWare サーバーにログインしているワークステーションから変更する。

注: NetWare サーバーのネットワーク・ドライバー構成を変更した後、サーバーの Netfinity サポート・プログラムを遮断および再始動させ、変更が有効になるようにしなければなりません。サーバーの Netfinity サポート・プログラムを遮断するには、次のように入力し、**Enter** を押します。

```
UNLOAD NETFBASE
```

Netfinity を再始動させるには、次のように入力し、**Enter** キーを押します。

```
LOAD NETFBASE
```

NetWare サーバーのネットワーク・ドライバー構成の変更

NetWare サーバーのネットワーク・ドライバー構成の変更方法は次のとおりです。

1. ネットワーク・ドライバー構成プログラムを開始します。

NetWare サーバーのコマンド・プロンプトで、次のように入力して、**Enter** キーを押します。

```
LOAD NFCONFIG
```

2. ネットワーク通信ドライバーの構成を行います。

ステップ 5 (6ページ) に従って、NetWare サーバーのネットワーク・ドライバー構成の変更を行います。

ワークステーションからのネットワーク・ドライバー構成の変更

NetWareサーバーのネットワーク・ドライバー構成の変更をワークステーションから行う場合は、ワークステーションに、Netfinity マネージャー・プログラムかクライアントサービス・プログラム(OS/2版、Windows版、Windows 95版、またはWindows NT版) がインストールされ、正常に機能している必要があります。

ワークステーションからの NetWare サーバーのネットワーク・ドライバ構成の変更方法は次のとおりです。

1. ワークステーションから NetWare サーバーにログオンします。
2. サーバーのドライブ名をマップします。
3. ネットワーク構成プログラムを開始します。

- ワークステーションで OS/2 が起動している場合には、次の操作を行います。

- a. OS/2 全画面または OS/2 ウィンドウ・セッションを開始します。
- b. 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

```
NFCONFIG /NDP:driveletter:¥directory¥
```

ここでの *driveletter* とは、ステップ 2 でマップしたディスク・ドライブ名を意味し、*directory* とは、Netfinity プログラム・ファイルがインストールされている NetWare サーバーのディレクトリー名 (通常は WNETFIN) を意味します。

- ワークステーションで Windows が起動している場合には、次の操作を行います。

- a. プログラム・マネージャから「アイコン」プルダウン・メニューを選択します。
- b. 「アイコン」プルダウン・メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- c. 次のように入力して、**Enter** キーを押します。

```
NFCONFIG /NDP:driveletter:¥directory¥
```

ここでの *driveletter* とは、ステップ 2 でマップしたディスク・ドライブ名を意味し、*directory* とは、Netfinity プログラム・ファイルがインストールされている NetWare サーバーのディレクトリー名 (通常は NETFIN) を意味します。

4. ネットワーク通信ドライバーの構成を行います。

ステップ 8 (14 ページ) に従って、NetWare サーバーのネットワーク・ドライバ構成の変更を行います。

Netfinity クライアントサービス (NetWare 版) の機能上の相違点

Netfinity マネージャー・プログラムを使用して、リモートで NetWare サーバーを管理する際に、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) が稼働しているサーバーで使用できる機能は、Netfinity クライアントサービス・プログラム (OS/2 版) または Netfinity クライアントサービス・プログラム (Windows 版) が稼働しているシステムで使用できる機能とは異なる場合があります。次に、その違いを示します。

- システム・モニター・サービスは NetWare サーバーに「特有のモニター項目」が追加されています。追加されているモニターは次のとおりです。
 - 接続ユーザー数
 - ボリューム容量 / 使用率
 - 使用中のキャッシュ・ブロック数
 - 使用中のキャッシュのパーセンテージ
- Netfinity マネージャー・プログラムまたはクライアントサービス・プログラム (OS/2 版、Windows 版、Windows 95 版、または Windows NT 版) の使用時に使用可能なアラート・マネージャー・アクションの多くは、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) の使用時には、使用不可となります。

こうした機能上の相違点を別にすれば、NetWare サーバーで使用できる Netfinity クライアント・サービスのリモート管理機能は、他の Netfinity クライアント・サービス・プログラムが稼働しているシステムでのリモート管理機能と同じです。

Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) は、Netfinity マネージャー・プログラムを使用して、リモートで NetWare サーバーの監視および管理ができるように設計されています。また、Netfinity クライアントサービス・プログラム (NetWare 版) には、GENALERT コマンドを使用して、サーバー上に Netfinity アラートを生成したり、ECC メモリー・セットアップを使用して、サーバーの ECC メモリーを構成できるなど、いくつかの限られたコマンド・ライン機能もあります。

GENALERT.NLM

GENALERT.NLMは、サーバー内にアラートを生成するプログラムです。このアラートは、次に示すユーザー定義のパラメーターがあります。

GENALERT.NLM のコマンド・ラインの書式は、次のとおりです。

```
LOAD GENALERT /T:"text" /APP:id_name  
/SEV:0..7 /TYPE:sssttt /ATYPE:hexnum
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

/T:"text"	アラートを説明するテキスト・メッセージ。必ず引用符が必要です。
/APP:id_name	アラートのアプリケーション ID (1~8 文字)。
/SEV:0...7	アラートの優先順位または重大度 (0 = 最大、7 = 最小)。
/TYPE:sssttt	アラートの標準タイプ sssフィールドには、次のようなアラートの ID が入ります。

- UNK - 不明
- SYS - システム
- DSK - ディスクまたは DASD
- NET - ネットワーク
- OS_ - オペレーティング・システム
- APP - アプリケーション

DEV - 装置
SEC - 安全保護

ttt フィールドには、次のようなアラートのクラスが入ります。

UNK - 不明
FLT - 失敗または障害
ERR - エラー
WRN - 警告
INF - 情報

/ATYPE:*hexnum*

アプリケーション特定アラート・タイプを16進数で定義します。値は 0000 ~ FFFF の範囲です。

ECCMEM.NLM

ECCMEM.NLM を使用すると、サーバー上で、ECC メモリー・セットアップのすべての機能を実行することができます。ECCMEM.NLM のコマンド・ラインの書式は、次のとおりです。

```
LOAD ECCMEM /INIT /SCRUB:ON or OFF /THRESH:ON or OFF  
/COUNT:ON or OFF /QUIET /COUNTVAL:number  
/THRESHVAL:number
```

コマンドライン・パラメーターは、次のとおりです。

/INIT ECCメモリーを、保管されている設定値に初期設定します。

/SCRUB: *ON* または *OFF* ¹ シングル・ビット・エラー修正を使用可能または使用不可にします。

/THRESH: *ON* または *OFF* ¹ シングル・ビット・エラーしきい値 NMI を使用可能または使用不可にします。

/COUNT: *ON* または *OFF* ¹ シングル・ビット・エラー・カウントを使用可能または使用不可にします。

/QUIET ECCMEM のテキスト出力を生成させないようにします。

/COUNTVAL:*number* シングル・ビット・エラー・カウントを特定の値に設定します。

/THRESHVAL: *number*¹ シングル・ビット・エラーしきい値を特定の値に設定します。

¹ これらのオプションは、保管されている設定値を指定した値に更新します。システムを再始動すると、保管された設定値で ECC メモリーを構成します。

付録A. サポートされる PFA ハード・ディスク・ドライブ

事前障害分析 (PFA) は、次の PFA 使用可能なハード・ディスク・ドライブをサポートします。事前障害分析サービスで監視および管理できるハード・ディスク・ドライブは、次に示すものだけです。

- IBM 0664 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM 0663 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM 0662 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM DPES-31080 型ハード・ディスク駆動機構 (製品改訂版 531Q のみ)
- IBM DFHS 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM DFMS 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM XP31 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM XP32 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM XP34 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM DORS-3216DW 型ハード・ディスク駆動機構
- IBM FIREBALL12805 型ハード・ディスク駆動機構 (製品改訂版 630N またはそれ以上)

Netfinity マネージャーおよび Netfinity クライアントサービス・プログラム (OS/2 版または Windows NT 版) では、上記のハード・ディスク・ドライブに加えて、自己モニター分析報告技術 (SMART) 標準に適合するハード・ディスク・ドライブもサポートします。SMART 準拠のハード・ディスク・ドライブは、Netfinity マネージャーまたは Netfinity クライアントサービス・プログラム (OS/2 版または Windows NT 版) が稼働しているシステムでのみ使用できます。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスに言及している部分があっても、このことは当該 IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスの代わりに、IBM の知的所有権または他の法的保護権を侵害していない、機能的に同等のその他の製品、プログラムまたはサービスを使用できます。ただし、弊社が明示して指示しているものを除き、他の製品、プログラムまたはサービスに関する評価および確認はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権(特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。特許実施許諾に関するお問い合わせは、文書でもって下記の宛先にご連絡ください。

〒106 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Thornwood, NY 10594
U.S.A.

商標

本書において使用されている次の用語 (アスタリスク (*) で示されます) は、米国 IBM Corporation の商標です。

DB2	IBM
Netfinity	OS/2

本書において使用されている次の用語は、他社の商標です。

IPX	Novell, Incorporated
NetWare	Novell, Incorporated
Novell	Novell, Incorporated

Microsoft、Windows、および Windows NTは、Microsoft Corporation の登録商標です。

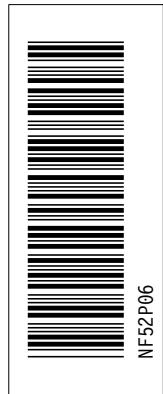
Tivoli、TME および TME10 は、Tivoli Systems の登録商標です。

他社名、製品名、およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

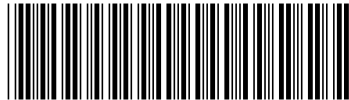
IBM

部品番号: NF52P06

Printed in Japan



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SC88-6559-00

Grid Definitions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
DRTYPE	D3VF3NST	i	

Figures

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
A02A	D3VF3NBD	13	1
A02	D3VF3NBD	14	2

Headings

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
LOCINS	D3VF3NBD	5	NetWare サーバーでのインストール 5
REMINS	D3VF3NBD	11	ワークステーションからのインストール 5
START	D3VF3NBD	17	Netfinity の開始 11, 16
NDCON	D3VF3NBD	19	ネットワーク・ドライバー構成の変更 10, 16
PFADRV	D3VF3NAP	27	付録A, サポートされる PFA ハード・ディスク・ドライブ
NOTICES	D3VF3NAP	29	付録B, 特記事項 ii

Processing Options

Runtime values:

Document fileid	D3VF3NBS SCRIPT
Document type	USERDOC
Document style	SERVER
Profile	EDFPRF40
Service Level	0028
SCRIPT/VS Release	4.0.0
Date	98.08.18
Time	11:24:12
Device	PSA
Number of Passes	2
Index	YES
SYSVAR G	INLINE
SYSVAR R	ETSU
SYSVAR W	ETSU
SYSVAR X	YES

Formatting values used:

Annotation	NO
Cross reference listing	YES
Cross reference head prefix only	NO
Dialog	LABEL
Duplex	YES
DVCF conditions file	(none)
DVCF value 1	(none)
DVCF value 2	(none)
DVCF value 3	(none)
DVCF value 4	(none)
DVCF value 5	(none)
DVCF value 6	(none)
DVCF value 7	(none)
DVCF value 8	(none)
DVCF value 9	(none)
Explode	NO
Figure list on new page	YES
Figure/table number separation	YES
Folio-by-chapter	NO
Head 0 body text	(none)
Head 1 body text	(none)
Head 1 appendix text	付録
Hyphenation	NO
Justification	NO
Language	JAPA
Keyboard	395
Layout	OFF
Leader dots	YES
Master index	(none)
Partial TOC (maximum level)	4
Partial TOC (new page after)	INLINE
Print example id's	NO
Print cross reference page numbers	YES
Process value	(none)
Punctuation move characters	(none)
Read cross-reference file	ETSU
Running heading/footering rule	NONE

Show index entries NO
Table of Contents (maximum level) (none)
Table list on new page YES
Title page (draft) alignment RIGHT
Write cross-reference file ETSU

Imbed Trace

Page 0	D3VF3NST
Page i	E1D9VNT
Page iv	D3VF3NBD
Page 26	D3VF3NAP
Page 29	E1D9SNT
Page 29	E1D9PAT
Page 30	E1D9IBMT
Page 30	E1D9NONT
Page 30	E1D9GENT